

206年

建安十一年（漢）

皇帝

劉協（漢獻帝）

皇后

伏寿（琅邪郡東武県・父の伏完は不其侯、桓帝の娘陽安公主を娶る）

三公（漢）

太傅：(空席)

太尉：(空席)

司徒：趙温(前衛尉・194~208)

司空：曹操

その他の要職（漢）

太常：

光祿勳：

衛尉：

太僕：

廷尉：

大鴻臚：

宗正：

大司農：

少府：

大司馬：空席

大將軍：韓暹

驃騎將軍：張濟

車騎將軍：楊奉

行車騎將軍：曹操

衛將軍：

地方官

冀州牧：曹操

荊州牧：劉表(192~208)

主な事件

- ▶ 建安十一年春正月、北斗に流星が有った。《後漢書孝獻帝紀》
- ▶ 三月、曹操は并州に高幹を破り、之を捕らえる。典論にいう上洛都尉の王[王炎]は之を破り追って之を斬る。《後漢

書孝献帝紀》

- ▶ 秋七月、武威郡太守の張猛は、雍州刺史の邯鄲商を殺す。《後漢書孝献帝紀》
- ▶ この歳、故琅邪王劉容の子の劉熙を立てて琅邪王とした。齊、北海、阜陵、下?、常山、甘陵、濟北、平原の八つの国は皆除かれた。《後漢書孝献帝紀》

## 誕生者

## 死没者